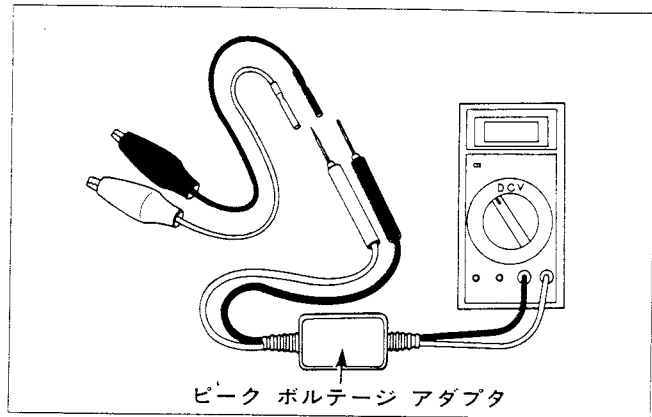


## 作業上の注意

- 点火装置の点検は、故障診断表(⇒22-20)に基づいて、順を追って点検する。
- 点火装置の故障は、カプラや、コネクタの接触不良が原因となっていることが多い。各整備を行う前に接触部の接触不良がないか、点検を行うこと。
- エンジン コントロール ユニットの落としたりして強い衝撃を与えると、故障の原因となるため、取扱いには充分注意すること。また、電流が流れているときに、コネクタやカプラの断、接続を行うとユニットに過電圧が発生し、ユニット内回路の損傷につながることもある。必ずメイン スイッチをOFFにして作業すること。
- スロットル センサはキャブレターから取外さないこと。スロットル センサに異常がある場合は、センサとセンサ ステイ Assy、ジョイント、スロットル シャフト、スロットル リンク アームをセットで交換すること。

## 点火装置の点検

- ・スパークプラグに火花が出ない場合、配線各部に外れ、ゆるみ、接触不良など異常がないことを確認した上で各々のピーク電圧を測定すること。
  - ・純正デジタル テスタまたは、入力抵抗(インピーダンス)が10MΩ/DCV 以上の市販デジタル テスタで測定すること。
- テスタの種類によってテスタの入力抵抗が違うため表示される値が異なり、正しい数値が計測できない。

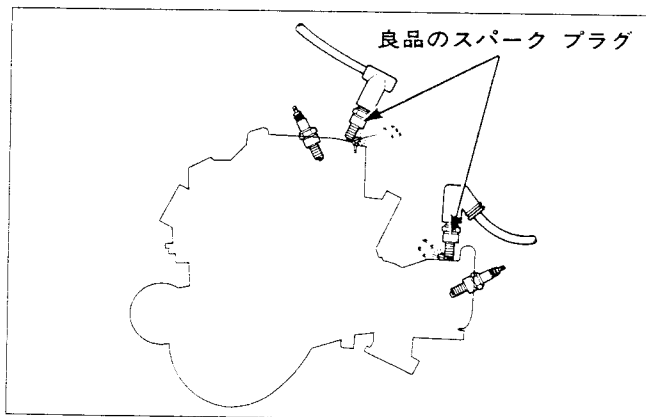


デジタル テスタにピーク ボルテージ アダプタを接続する。

- 測定工具
- ピーク ボルテージ アダプタ 07HGJ-0020100
- 興和製純正デジタル テスタ 07411-0020000
- 入力抵抗 10MΩ/DCV 以上の市販テスタ

## イグニッション コイル一次電圧 (一次側ピーク電圧)

- ・点火システムを正しく配線して測定すること。配線に接続外れがあると正しい測定ができないことがある。
- ・シリンダ圧縮圧力があり、プラグが正常に取付いた状態で点検すること。



ニューエル タンクを取外す。(⇒4-2)

一次側ピーク電圧は、クランキングしてイグニッション コイル一次側の電圧を測定する。このため、片側の気筒にのみ異常のある時にキックして電圧を測定すると、正常な気筒のスパークによってエンジンが始動し、クランキング速度が不安定になり正しい数値を得ることができない。

通常のスパーク テストと同じ要領で、スパーク プラグをシリンダヘッドに残したまま、良品のプラグを両気筒のプラグ キップに取付け、エンジンにアースさせ、次頁の要領に従って、一次電圧を測定する。